

野尋禾の  
ついのべ  
その五  
(2010/01)



# まえがき

”野尋禾のついのべ その五 (2010/01)”です。  
2010年1月に発表したついのべをまとめました。

この前月にはじめて回文ついのべはしだいにトーンダウンしています。  
書けることは書けるんですが、われながら意味がわからない。  
いや、意図するところはあるわけですが、伝わってる自信がない。  
そんな作品のありかたに対する疑問が、雪だるま式に膨らんできたためです。

それから、突発的連作”ツイッター・クロニクル、または、ツイッターの黄昏”と  
いうべきものが再録されています。  
いわゆる未来史のつもりです。  
この手の連作は、この先も、”フォロミアン・クロニクル”など、突発的に発生し  
ます。  
楽しんでいただければ幸いです。

連作といえば、ほんとうに散発的に発生しているものもあります。  
そのうち、パブでまとめられれば、と考えています。  
ついのべ以上の分量の作品に膨らませることも考えています。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあり  
ます。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属し  
ます。

2010/08/01

HP : [http://www.geocities.jp/nohiro\\_nogi/](http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/)  
mail : nohironogi@gmail.com  
Twitter : @nohironogi

#twnovel

その朝、世界が白くなった。  
空から白いものが間断なく降ってくる。  
止む気配はない。  
雪ではないとわかったのは一週間後。  
社会機能は麻痺していた。  
しかし人々は不安を感じなかった。  
”雪”の内部では誰とでも思考通信ができた。  
孤独を感じなかった。  
白い光に埋もれて人類は進化する。

2010/01/01 (Fri)

#kaibun  
#twnovel

今、歌うはこの声。  
先ゆき欠き、雪かき。  
夢さめ、目さめ……雪かき、雪かき。  
雪さえ、この子は歌うまい。

2010/01/02(Sat)

#twnovel

走者が襷を俺に手渡す。  
俺のチップが膨大な情報を取得する。  
脚はもうレースの流れの中。  
ライバルの背中が迫り、背後に去る。  
誰よりも早く山を越え、情報を伝える。  
それが俺のミッション。  
情報網の寸断された列島をつなぐため？  
そんなの、俺にはどうでもいい。  
駅伝走者は走るだけ。

2010/01/03 (Sun)

#twnovel

家族の仇を討つため、イトカワ博士に改造された俺は、小惑星型宇宙船ラッコでISS に乗り込んだ。

だが、そこで待っていたのは、ナオコの踊る寿司……  
新番組” アストロ・ソーイチ” にリフト・オフだぜッ！  
じゃあな！  
ゴッドスピード！

2010/01/03 (Sun)

#kaibun  
#twnovel

弓は溝の底に消ゆ。  
ならばまず鏡餅たたき切る後で、と歩き来た。  
太刀も磨かず。  
まばらな雪にこそ、のぞみは見ゆ。

2010/01/04 (Mon)

#twnovel

齢のせいか、疎遠になった連中をよく思い出す。  
学生時代の友は、漠然と幸福を祈るくらい。  
無性に会いたいのは、一緒に苦労した仲間。  
いい別れ方をしなかったのが心残りだ。  
逆に苦労させられた奴らの顔は見たくない。  
皆、同じ思いだろう。  
しかし、なぜ誰も連絡してくれないのか……

2010/01/04 (Mon)

#twnovel

自分の娘が子供向け番組にレギュラー出演している、と仮定する。  
その番組がオンエアされると、SNS や BBSが娘の名前で埋まる現象が日常化する、とする。

その内容の大半が奇声のようなもので、文章のていをなしていない、とする。  
娘を引退させる決断する。  
親としては、おそらく。

2010/01/05 (Tue)

#twnovel

人生は芝居、なんていう。  
でも、どんな芝居だろう。  
みんな演技は素人。  
三文芝居の大根役者だらけ。  
そうしてみると、たるんだ世の中を見る目も変わってくる。  
でも、一度だけ迫真の演技に出会ったことがある。  
僕のおどおどした台詞を受けて、その人は言った。  
「君に娘は渡さん……」

2010/01/09 (Sat)

#kaibun  
#twnovel

「マイ猿の手？ 世界遺産？ 味噌汁？」  
「カワウソですから、マラカスで……」  
「そう、わかるし……」  
「蘇民祭、行かせて！」  
「乗るさ、今！」

2010/01/09 (Sat)

#kaibun  
#twnovel

ダン！  
冷たい手で、たまたま引いたトリガー。  
抜いたガリア。  
「ありがとう！」  
とガリア。  
「ありがたい……」  
又一狩りと対比。  
またまた、出ていた芽、摘んだ。

2010/01/09 (Sat)

#twnovel

里から戻った妻は台所に直行。  
「ばあちゃんから秘伝を伝授されたの」  
やがて湯気をたてる土鍋が登場。  
「召し上がれ」  
大根に箸を伸ばす。  
「味がしみるようにね……」

説明も聞かずに口へ。  
ガチ、と歯。  
ぼたり、と唇から赤いもの。  
「隠し包丁をね……」  
隠されていたのは、カッターの刃。

2010/01/09 (Sat)

#twnovel

今年も、歳末たすけあい運動が始まりました。  
NOKでは、渋谷放送センター、全国の支局などで募金を受け付けています。  
各金融機関に備え付けの用紙でも振り込むことができます。  
インターネットでも募金できます。  
皆様の温かい善意をお寄せ下さい。  
元旦の今日から受け付けています。

2010/01/09 (Sat)

#kaibun  
#twnovel

「だが、貸して！」  
「貸す。で、子供どこ？」  
「いいバネ……芝ね、成人式？」  
「新成人さん、自慰せんし。紀信、自慰せねば……」  
「死ねばいい。子供どこですか？」  
「弟子屈だ！」

2010/01/10 (Sun)

#twnovel

太鼓の音が響く。  
和太鼓のようだが、異国風でもある。  
どこで叩いているのか、公園を埋め尽くす群集に隠れてわからない。  
何の集まりなのかもわからない。  
その中に懐かしい顔。  
「父さん」  
と声をかけると、太鼓の音が止んだ。  
霧のように群集が消えた。  
公園の真ん中に、ぽつん、と太鼓。

2010/01/10 (Sun)

不可視の奔流。  
まず衝撃波。  
遅れて轟音、旋風、鎌鼬。  
そして巻き上げられた小石や塵芥が落ちる。  
静寂が戻ると、あとには同心円状に夥しい屍。  
その中心に佇む晴着の娘が、にっこり笑う。  
物陰に隠れた僕は言葉もない。  
傍らの老師が呟く。  
「見たか。あれこそ武芸百般の百一。振袖じゃ」

2010/01/10 (Sun)

知恵の実はどんな味がしたのだろう。(2010/01/11 - 2010/01/20)

---

#kaibun  
#twnovel

「駄目駄目。雪月夜だ」  
「嘘つき、かな？」  
「成人の日だから、目なのか？」  
「子供ね。靴はかっこいいけど……」  
「どけ！」  
「いい？ 国家は……」  
「つくねも、どこかの……なめらかだ。日野」  
「ん？」  
「爺、背中、きつそうだよ」  
「気づき、夢……」  
「駄目だ……」

2010/01/11 (Mon)

#twnovel

夜明け。  
太鼓の連打。  
濁流のごとく、若い衆が走り出す。  
門前町を抜け、大鳥居を潜り、参道を踏む。  
長い石段で半数以上が脱落。  
登りつめると薄暗い境内。  
一番のりの若者は巫女から火種を受け取る。  
これから日没まで、この火種を奪い合う。  
死傷者も出る荒々しさ。  
これが成人の火の祭。

2010/01/11 (Mon)

#twnovel

で、どうする？  
隠れてやりすごすこともできる。  
敵を買収することもできる。  
無理して戦うことはない。



とにかく、朝まで生き残ればいい。  
そうすれば、生きていける。  
一人対全町民と傭兵どもの戦争に生き残りさえすればな。  
何度も言うが、戦わなくても……そうか。  
行きな。  
成人式に。

2010/01/11 (Mon)

#kaibun  
#twnovel

過去の南浦和は、震える駅——遠ざかる地。  
今、那覇。  
脳味噌——秘密の罪。  
蜜の罪、潜み……卯の花、舞い散る。  
風音、消える。  
エルフは笑う。  
南の子か。

2010/01/11 (Mon)

#kaibun  
#twnovel

「ああ……撫でたでな、森繁久彌。疲れても見栄。頬にいつも艶。奴もついに……微笑みも照れか。艶さ、髭……尻も撫でたでな。ああ……」

2010/01/12 (Tue)

#kaibun  
#twnovel

「食べるケツめ！」  
「事件さ——まあ、ね。たいてい辛い自力再建……」  
「買う？ 優子」  
「買う！」  
「そうか！ 交遊関係！」  
「早紀理事、いらついていたね」  
「尼さん……」  
「けじめ、つける」  
「……ベタ」

2010/01/12 (Tue)

#kaibun  
#twnovel

「ヤバ！ その店、中洲だ！」  
「胃もおかしな春が懐かしい……」  
「落語くらいしか……つながる！」  
「噺家！」  
「思い出すかな……蝉の蕎麦屋」

2010/01/12 (Tue)

#kaibun  
#twnovel

「素で遺憾」  
「だいたい——そもそも顔！」  
「悲し……」  
「顔は力、形」  
「小澤一郎、狼狽か？」  
「脳の海馬、うろうろ……」  
「地位、技——堕ちたから、価値は」  
「おかしな顔か？」  
「もそもそ……痛い段階です」

2010/01/13 (Wed)

#twnovel

寒い。  
ひもじい。  
今夜もマッチは売れなかった。  
お金も食べ物もないけど、マッチだけはある。  
ほんの少し暖をとっても罰はあたらないと思う。  
一本、擦ってみた。  
幻が現れた。  
暖かい部屋とご馳走。  
思わず手を伸ばすと、炎が消えた。  
もう一本、もう一本……最後の幻は警官の姿だった。

2010/01/13 (Wed)

#twnovel

ツイッターを始めて三ヶ月。  
フォローする人、される人。  
だんだん増えて楽しくなってきた。  
挨拶を交わすだけでも嬉しい。  
以前は考えられなかった。  
最近の悩みの種は、TL の流れの速さ。  
とても追いきれない。  
本当に全人類の人格情報が貯蔵されているんだ。  
この星系間移民船の電腦に。

2010/01/14 (Thu)

#twnovel

誰からの指令なのかわからない。  
だが、その指令はツイッターユーザーに確実に伝達されていった。  
ツイッター以外の手段で。  
ただし、ある特定の一名のユーザーを除いて。  
つぶやきは、こんな風に始まった。  
” 富士山なう”  
” 地震なう”  
” 噴火なう”  
そして、首相は海外脱出を決意した。

2010/01/14 (Thu)

#twnovel

広大な埋立地。  
本土決戦を期して、旧陸軍が演習用地として漁民からとりあげた浜のなれのはて。  
戦争が終われば無用の空き地。  
塹壕を掘りまくったので危険きわまりない。  
長いこと放置されていたが海外資本が目をつけた。  
建設されたのは巨大遊園地。  
塹壕は地下道として活用されている。

2010/01/14 (Thu)

#kaibun

#twnovel

長い柵。  
「海軍やな？ 唸るな！」

「う……」  
「肉、どう？」  
こっそり囁く大和撫子。  
「腰でな、と！」  
「……麻薬？」  
矢、刺さり、即効——毒に、唸る。  
「ナウなヤング、イカ臭いがな……」

2010/01/16 (Sat)

#kaibun  
#twnovel

「正に何？」  
「魔の” つい ”。何か食べたいわけ——いくつ面接だ？」  
「内定さ！」  
「最低な……」  
「脱・殲滅！」  
「食い気！」  
「わい食べた。蟹な！」  
「いつのまに……何様？」

2010/01/17 (Sun)

#twnovel

知恵の実はどんな味がしたのだろう。  
アダムとイブはそれを食べて、裸でいるのが恥ずかしくなった。  
隠さなくてはいけない、と感じた。  
神に似せた身体を。  
今の僕には、わかる気がする。  
なんだか、恥ずかしくてたまらないんだ。  
他の誰かのそれさえ。  
僕は、もう、以前のように呟けない。

2010/01/18 (Mon)

#twnovel

今度はビジネス誌か。  
先週の何本かの TV 番組の影響でユーザーが急増したところに、また新規参入者がやってくる。  
雰囲気も変わってくるだろう。



「取組を振り返って、いかがですか？」

「はあはあぜいぜい……そうすねえ。がああああああああつとって、ぎいいいい  
つとなったとき、ぐぐぐぐぐつともちこたえて、げえつとなったんすけど、ごお  
おおつといけたんで……」

「ありがとうございました」

2010/01/19 (Tue)

#twnovel

(五十音ついのべ。あ行)

「あああああああああああああああああああつ！　　いいいいいいいいいい  
いいいいっ！」

「うっ！」

「ええええええええええええええええええつ……おとおとおとおとおとお  
おとおおおう……」

「お客様、だいぶ凝っておられたようで……」

2010/01/19 (Tue)

#twnovel

猫と暮らす部屋を探している。

でも、独身女性向け物件ではきびしい。

そんなとき、その貼紙が——”家賃四万円猫可”。

飛びついた。

「私、猫が飼いたいんです」

「え、ペット不可ですよ」

「でも、”猫可”では？」

「これは、家賃を猫で払うという意味ですが」

「……お邪魔しました」

2010/01/19 (Tue)

#twnovel

サーバーがおちた。

約一時間で復旧。

TL が流れだした。

フォロワー数に目をやると、数字がひとつ増えるところだった。

条件反射でフォローを返すと、タイミングよく、その人が呟く。

” 黙ってりゃいい気になりやがって、ぶつぶつぶつぶつ鬱陶しい。”

……鯖さんの呟きは不可解だった。

2010/01/20 (Wed)



ツイッターの黄昏、そして、ブルームーン。(2010/01/21 - 2010/01/31)

---

#kaibun  
#twnovel

カフカのこの悪夢を愛でる、子盗ろ——プチ家出し、互いに得たもの。  
もし、理解できても、この子も敵で、怒りしものも絶え……  
新潟市で英知——プロトコルで目をむく、あの子の過負荷。

2010/01/21 (Thu)

#kaibun  
#twnovel

「勇魚、ミスヤ」  
「俺が……」  
「せがれ……」  
「おやすみなさい」

2010/01/21 (Thu)

#kaibun  
#twnovel

笑みが消え……震えから、  
「神と人は、四川、ハイチの……」  
「糞……悔しいな」  
「嘘……きなくさい」  
傾いた今が、マイタイム。  
高い柵。  
泣きそうな医師。  
約束の地——  
違反せしは——と、瞳から還る。  
不易が見え……

2010/01/21 (Thu)

#twnovel

風の強い夜です。  
珍しく暖かい日でしたが、陽が落ちてから急に冷えてきました。



冷たいインクを流した空の上で、風が吹き荒れています。  
こんな夜なら——街なかでは無理だけど、もう少し郊外へ行ってごらん。  
きっと見られるよ。  
面白いものですよ。  
空を飛び回る、巨人たちのいくさは。

2010/01/21 (Thu)

#kaibun  
#twnovel

「仇か、大夫の……潔い」  
　　武士が渋るが、  
「するべ！好き？嫌い？」  
「喧嘩すんな——ん？」  
「……そんなん好かん！」  
　　警邏、聞き、滑る。  
　　縋る。  
「武士が……」  
「渋い余技……才能ゆたか！」  
「来たか……」

2010/01/22 (Fri)

#kaibun  
#twnovel

「もしもそうなら本番か。心、でかくなる」  
「何、わしも、つい泣いた。見よ、かのうまし甘露——リツイート統一理論！」  
「ロリツイート統一理論か？　しまうのか？　読みたいな」  
「……いつも皺になる」  
「泣くか。出る。ここ、看板——ほらな？」  
「嘘。もしも……」

2010/01/22 (Fri)

#twnovel

ツイッターが終わって、僕らは生まれた。  
全人類が眩きを共有する世界は地獄だった。  
国連が中心になって撲滅した。  
学校でそう教わった。  
もう信じてない。  
終わってなんかいないんだ。

眩きは終わらない。  
それを教えてくれた人は、夜明け前に旅だった。  
ツイッター狩りから逃れるために。

2010/01/23 (Sat)

#twnovel

流れ者と口をきいちゃいけないよ、と母さんは言う。  
でも、あの人は違うよ。  
僕の話をちゃんと聞いてくれるんだ。  
無口だけど、聞いているふりじゃない。  
一人のときも、耳をすましてる。  
まるで、遠い惑星の眩きを聞くみたいに。  
今、その頬が濡れている。  
「地球で、最後のツイートが……」

2010/01/23 (Sat)

#twnovel

都市以外は人の生きる場所ではない。  
それが火星。  
農場も例外ではない。  
流れ着くのは、異常者。  
それを追う私もまた——  
「ツイッター・デバイスをマウントしてるな。連行する」  
無抵抗。  
デバイスの除去は無料で簡単だ。  
それを拒み、逃亡する理由はない。  
眩きは、もう届かないのだから。

2010/01/23 (Sat)

#kaibun

#twnovel

「無謀な賭けだ。いたいけな二人が……」  
”夏への扉”——空から、その軌跡を見出す計器。  
死と癒し——今、狭い視野。  
「愛しき生け簀だ」  
「意味を？」  
「……奇跡の空から、空びと、野へ」  
「つながり——タフな携帯だけか……」

「——Now……BOMB！」

2010/01/24 (Sun)

#twnovel

十日ぶりの雨。  
慌てて、地下道へ。  
君の手を握りしめて、階段を駆け降りた。  
ほっとした僕の手を、君がふりほどく。  
無言で。  
僕の中で、何かが弾ける。  
急に、何もかもわからなくなる。  
言葉が出ない。  
轟、と雨音——階段を水が駆け降りる。  
飛沫——それはまるで、壊れたスプリンクラー。

2010/01/24 (Sun)

#kaibun  
#twnovel

「なんで？ う！ そりゃ、シベリアもでんな……羊羹、買うよ」  
「なんでもあり？ べしゃり」  
「そうでんな」

2010/01/24 (Sun)

#kaibun  
#twnovel

「できた！」  
呑みこむ。  
噛む。  
嚼る。  
「すうどん、どうか？」  
「と、ときどき好き」  
「ま、勝手しすぎ。杉並区！」  
「下男もだもん」  
歎く。  
みな、ぎすぎすし、  
「鉄火巻き、好き！」  
「土器と、とか……うどん、どうする？」

「進むか！婿、身の丈で」

2010/01/25 (Mon)

#twnovel

どこかで梅が咲いたという。  
梅は咲いたか、桜はまだかいな——婆ちゃんが、よくくちずさんでいた。  
婆ちゃんちの桜は遅咲きで、いつまでも咲かない。  
世間で花見もすんで、葉桜になる頃に、やっと数輪が開く。  
婆ちゃんはそれを見上げては、呟いていた。  
「まったく、あのひとらしいよ」

2010/01/26(Tue)

#twnovel

明日、世界が滅亡するとしても、私は馬鹿なことを呟こう。  
林檎の種が見つからないから。

2010/01/26(Tue)

#twnovel

眩しくて、海のほうに顔を向けられない。  
風が肌に噛みついてくるのに、空には雲ひとつない。  
ネットを擦るサーブみたいな陽光が、海面でバウンドして眼に突き刺さる。  
波のパターンでちらつく。  
防波堤の上には君がいるはず——ほんとうに？  
「どうかした？」  
声が降る——影絵の君の。

2010/01/27 (Wed)

#kaibun

#twnovel

つい、と退く。  
百合咲くとき、去りゆく。  
置き時計——独自のロゴ。  
残るレス。  
わりと夢みたいなこと言いまくり、離陸。  
「ま、いいとこな、伊丹」  
眼——ゆとり忘れる、この頃の字。  
くどいけど、記憶。

百合咲き、疾く去りゆくひと——いつ？

2010/01/28 (Thu)

#twnovel

一生ぶんの勇気をふり絞り、告白。  
頷いてくれたときには、死ぬかと思った。  
普通につきあい始めた。  
普通じゃなかったのは、手も握らせてくれないこと。  
さりげなく伸ばした手は、ことごとくかわされた。  
そして一年、やっと彼女の手を掴んだ。  
涙が出た。  
彼女は言った。  
「免許皆伝じゃ」

2010/01/28 (Thu)

#twnovel

猫の考えていることなんて、わかるわけがない。  
喰う、寝る、出す——そんなところだろう。  
猫の喜怒哀楽は、見る人の喜怒哀楽。  
けれど、心が弱っているときには、きまってそばにいる。  
獣なりの優しさを感じる。  
感謝もしている。  
だから、そろそろ、降りてくれないかな。  
私のお腹から。

2010/01/30 (Sat)

#twnovel

あくまでも、ペンギンは通過点に過ぎない。  
檻の中の動物たちを解放、共生するのが私の夢だ。  
製薬会社のマウスから始めて、徐々に対象を大型化してきた。  
不運にも、動物園のペンギンまできて逮捕されてしまったが、諦めはしない。  
そのために、屋上で象が飼える家を建てたのだから。

2010/01/30 (Sat)

#twnovel

雪国生まれの冬ぎらい。  
幼いうちに、都会へ逃げ出した。

美貌が男たちを呼び寄せ、男たちは争って貢ぐ。  
冬には南の島へ。  
そんな暮らしも、終わりが来る。  
借金取りとストーカーに追い回される。  
冬はやりすごしたが、希望はない。  
歩道橋の陰に隠れた彼女の頭上に、氷柱が落下してきた。

2010/01/30 (Sat)

#twnovel

「ご存知ですか？ ブルームーンはひと月に二度の満月。珍しいことの例えでもある。当然、陰曆にはない。ただ青い月のことではないのですよ。もともと、月が狂気の象徴でしょう？ だから、二倍、いや二乗くらいに狂おしさもつものとして……」

「それが犯行の動機だと？」

2010/01/30 (Sat)

#twnovel

いつも満月の晩だった気がする。  
あのひとは、いつも満月を背負って立っている気がする。  
私はといえば、いつも背負った荷物に押し潰されそう。  
逃げ出したいのに、そうする勇気もない。  
そんなとき、あのひとに出会うのだ。  
そのたたずまいを見て、いつも私は決断する。  
行くか、戻るか。

2010/01/30 (Sat)

#twnovel

ブルームーン——  
今夜のあなたは、本当のあなたではない。  
朝日を浴びたら、今夜のことは忘れてしまう。  
そんなはずはない、と？  
たしかに、明日のあなたは今夜のことを思い出す。  
でも、それはすりかえられた偽の記憶。  
月光の下の出来事は、なにひとつ残らない。  
さあ、行きましょう。

2010/01/31 (Sun)

#kaibun  
#twnovel

「ねだる？ 駄目！ そこ、ドン！」

「高速！ バンクーバー婆さん！」

「なか卯・吉野家こと——」

（床屋の仕様かな……ん？）

「さあ、バーバー君、爆走！ 今度こそメダルだね！」

2010/01/31 (Sun)